

# 事業承継を成功に導く 5つのステップ

Q. さまざまな事業承継をしようと思いますが、どのようにすすめたらよいでしょうか？

A. 事業承継を円滑に進め、成功に導くために、次の5つのステップを踏まえ「事業承継計画」を策定し着実に実行しましょう。

## ① 経営者の気づきと動機づけ

経営者が戦略的思考をもって中期経営計画を策定し、これからの経営のあり方を真剣に考えれば、自ずと事業承継の場面がイメージできます。事業承継に失敗した会社の多くは、具体的な対策を講じなかつたことにあります。経営者自らが気づき、動機づけられないと日々多忙ゆえ、どうしても後回しにしがちです。緊急性はありませんが、避けられないのも事実であること

を改めてしっかりと認識しましょう。

## ② 現状分析

後継者を選定したら一緒に会社、経営者、後継者等について現状分析し、事業承継上の課題を明らかにしましょう。特に借入金や保証人（債務承継）については慎重に事実を確認する必要があります。業績不振から債務超過、連続赤字等の場合には、会社の持続可能性自体が心配されます。

## ③ 方向性の決定

課題が抽出されれば、その解決に向けての方向性と打ち手を決めます。事業承継を成功させる基本ポイントは、「自社株式及び事業用資産

を後継者に円滑に移転させ

る」ことです。贈与税や相続税対策として大きな節税となる事業承継税制の活用等も検討する必要があります。これらの優遇制度はメリットがある反面、適用の可否については厳しい要件があるので、必ず事前に税理士等の専門家に相談することをお勧めします。争族対策も忘れてはなりません。もちろん魅力的な会社にするために経営改善や経営革新は必須です。

## ④ 事業承継計画の策定

以上のことを踏まえて「事業承継計画」を策定します。いつ、誰が、何を、行うかを決め、スケジュール化するのです。このアクションプランが具体的な内容でないとまず実施に至りません。実行されなければ成果は生まれません。

## ⑤ 計画の見直しと管理

事業承継計画がスケジュール通り進んでいるかを確にチェック（モニタリング）しなければなりません。進捗管理のタイムニングは最低年1回、決算報告会の時に株価評価と共に移転の時期や対策を検討しましょう。会社を取り巻く経営環境は激変し、会社内部や経営者、後継者にも変化が生じます。事業承継計画は常に見直し、実行可能性の観点からその時々

に合った内容にリニューアルすることが大切です。  
(税理士 増山英和)